

学ぶ喜び わかる楽しさ が実感できる授業づくりにむけて

指導教諭による取組

学校の指導体制の充実、教職員間の協力協働の促進、及び教員の授業力向上を図り、児童生徒への教育の一層の充実に資するため、平成27年度から指導教諭を設置しています。

指導教諭とは？

- * 公開授業や師範授業、授業観察を通じた指導助言や個別相談
- * 効果的な指導資料の作成、活用指導
- * 研修会の企画運営などのOJT
- * 県内各種研修会での指導・助言

等を行います。



H29年度配置数
三重県：89人
(小：64人、
中：25人)

具体的な取組

各教室等を積極的に
に見まわり、若手教
員の学級経営を支
援しています！



指導教諭による授業
観察が週時程に位置
づけられ、計画的に
指導しています！

公開授業や師範授
業を5回以上実施
しています！
(約40%)



月に数回、経験の
浅い教員を集め、
自主研修会を開催
しています！

成果として 「教員の授業改善に向けた研修意欲、授業力の向上」
「児童生徒の学習意欲、学力の向上」 などがあります！

今後に向けて



- ◆ 「授業観察」「個別相談」「自主研修会」等、指導教諭の職務遂行に係る時間をしっかり位置づけ、組織的で計画的な取組をより一層進めます！
- ◆ 授業公開を実施する場合は、地域内各学校に開催案内を出す等、地域内教員の授業力向上につながる取組を進めます！

少人数加配による取組

児童生徒一人ひとりの実態や各学校の課題に応じたきめ細かな教育を推進し、基本的生活習慣や学力の確かな定着・向上を図るため、小中学校において「少人数学級」と「特定の教科における少人数指導」の両面で取組を推進しています。

報告事例

小学校 T Tによる指導・習熟度別授業

● 6年生の算数「面積」 ●

- * T1、T2の役割を入れ替えたり、児童にとって身近な課題を設定したり、グループ学習などを取り入れたりしたことにより、**児童が課題に意欲的に取り組むようになりました。**

● 2年生の算数「足し算・引き算の筆算」「九九」 ●

- * 習熟度別授業を行うことで、30マス計算において解答時間が1分ほど縮まるなど効果が見られました。

鈴鹿市 小学校

中学校 習熟度別授業

● 数学の習熟度別授業 ●

- * 生徒個々に対してきめ細かに関わることで、さらに習熟度に応じて学習を進めることにより、**学習の定着度**が高まりました。
- * 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック等の結果から、学習意欲の向上が明らかになり、**無解答率が大幅に減少**しました。
- * 全国学力・学習状況調査では、「図形」及び「資料の活用」の領域において、平均正答率が**全国平均を2.5ポイント上回る**結果となりました。

亀山市 中学校

今後に向けて



- ◆ 「わかる授業」促進事業における実践推進校での研究成果等を踏まえ、平成29年度は、学習内容や児童生徒の理解の状況に応じて、習熟度別学習を弾力的に取り入れる学校に**少人数加配を配置し、効果的な指導に取り組んでいます！**
- ◆ 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック等により、**少人数教育の効果を定量的に検証していきます！**

小学校外国語教育の早期化・教科化に向けた研修会

講師：文部科学省 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程調査官 直山 木綿子



H30・31年度に対応が必要な移行措置について

3・4年生 年間15単位時間新設

5・6年生 年間50単位時間実施（15単位時間増）

- * 外国語活動の増授業時数の授業実施のために特に必要がある場合には、**年間総授業時数及び「総合的な学習の時間」の授業時数を15単位時間減らす**ことができる。

なぜ15単位時間必要なのか？

3・4年生は新学習指導要領における外国語科との接続の観点から、5・6年生は中学校との接続の観点から、最低限必要な内容とそれを活用した言語活動を行うため、**年間15単位時間**必要であると考えられている。



年間指導計画例（素案）のポイント

3年生

- ・ Hi, friends!1 が基本 **ABC**
- ・ Unit6 アルファベット（大文字）を扱う
- * 発達段階を考慮し、**アルファベットは大文字から扱う**（小文字は文字によって大きさが違ったり、鏡文字があったりして複雑なため）

4年生

- ・ Unit2 動作を表す言葉 **abc**
- ・ Unit6 アルファベット（小文字）を扱う
- ・ Unit9 絵本を題材とした単元 Good morning!
- * 児童の表現を豊かにするため、**動作を表す言葉が増えている**

5年生

- ・ Unit1~4 大文字、小文字に出会い直しをさせ、定着を図る
- ・ Unit5 文字の音に出会わせる
- ・ Unit9 三人称
- * **三人称は扱うが、三人称単数現在形の's'は扱わない**（"This is my father. He can play tennis very well."のように、"is"または"can+動詞"を用いた表現を用いる）

6年生

- ・ Unit5, Unit7 過去形を扱う
- ・ 今まで扱った言語材料を繰り返し使用
- * **過去形**は主に規則動詞ではなく、**不規則動詞**を中心に扱う（-ed と変化する規則動詞は音的に判別しにくい）

* Unit ... 単元のことを表す



- * 3・4年生は**アルファベットの文字の読み方**を扱い、5年生では文字の読み方のほかに**文字の音**を扱う（発音できなければ意味がわからないため、学んだことを生かして読もうとすることが大切。綴りを覚えるものではない）。
- * 扱っている表現や場面設定は「**児童にとって必然性のあるもの**」である。文法を説明するのではなく、**コミュニケーション活動**を通して、英語で表現する体験をたくさんさせてほしい。
- * 文部科学省のホームページ上に掲載される新学習指導要領に対応する教材や研修用資料を用いて、**ぜひ、校内研修を行ってほしい。**

カリキュラム・マネジメントについて

<文部科学省「小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方」で検索>

- * 3・4年生 週当たり1単位時間相当の外国語活動を、**短時間学習で実施することは困難**である。短時間学習を行うならば、他教科で考えていく。
- * 5・6年生 短時間学習を行う場合、**45分授業と連動**させて行うことが大切である。また、児童が自分の思いや考えを少しでも言える時間をたくさん保障するために、45分を週2回実施する例等もある。**児童や学校、地域の実態を踏まえ、時間割編成を考える**ことが必要。

参加者の声

70時間という時間をどのように確保するか、イメージを持つことができました。45分授業との関連性を示して、短時間での学習も視野に入れようと思いました。



「子どもが言いたくなる」ことを大切に、新教材が作られていることが分かり、子どもたちに教えるのが楽しみになりました。



Hi, friends! Plus 等をもっと活用するとともに、今日の内容を学校で還流し、みんな「やっていかなければ!」という意識を持って取り組みたいと思いました。

学力向上 に向けた

具体的な実践事例

【事例】熊野市立井戸小学校
「TT による授業構成の工夫」

～実験・観察における T1 T2 の効果的な役割分担

学力向上に向けた取組

役割分担の明確化

- T1: 理科専科教諭（専門的な知識を活かし指導）
- T2: 学級担任（児童の状況を把握しきめ細かな指導）

具体的な取組

単元「ものの温度と体積」水の温度と体積

児童を2グループに分けて、2つの実験を交互に実施。

	Aグループ(T1担当)	Bグループ(T2担当)
1 時間目	水を温める実験	水を冷やす実験
2 時間目	水を冷やす実験	水を温める実験

【交互に実験を行うねらい】

- 2種類の実験を交互に行い、互いの経過を見合うことで両方の実験への興味関心を高める。
- 実験結果を伝え合う場面での言語活動の活性化を図る。
お互いの実験結果からわかったことを伝え合う際には、自分たちで行った実験方法の手順を伝え、結果から考えられることをわかりやすく説明する。
- 1時間目の実験を踏まえ、新たな視点を持って2時間目の実験に臨み、思考を深める。
例「水を温めると体積が増えるけれど、どれくらい増えるのだろうか。」→「どうしたら増えた量を測ることができるのかな。」

★ 1 時間目の授業例

	水を冷やす実験 (T1)	水を温める実験 (T2)
1	金属で実験した前時の振り返りと本時のめあてを提示する。	お湯や氷等実験に必要なものを準備・確認する。
2	「水を冷やす実験」の手順を説明する。	
3		「水を温める実験」の手順を説明する。
4	水を冷やす実験に必要な器具を配付する。	水を温める実験に必要な器具を配付する。
5	実験を行う。(机間指導) 実験結果が記入されたホワイトボードを回収し、黒板に掲示する。	実験を行う。(机間指導) 実験結果が記入されたホワイトボードを回収し、黒板に掲示する。
6	全ての実験結果のまとめを行う。	
7	まとめ～考察の授業の進行をする。	児童の考察を板書する。
8	振り返りと次時予告をする。	個別に支援を行う。

2時間目に内容を入れ替えて行った実験では、児童は前時の留意点（丸型フラスコを垂直に立てることや観察をする位置を決めること）を活かし、実験器具の操作を正確に行うことができた。また、実験のまとめでは、1時間目の実験結果に新たな視点を加味した意見交流が行われ、学習内容の理解を深めることができた。

共有ノートにより「めあて」や授業構成を共有

- 各時間の「めあて」「振り返り」をもとに、授業構成や役割分担（授業進行・課題提示・板書・ICT機器の操作・個別指導等）を事前に共有する。
- T1 T2 の打合せが短時間で効果的に行うことができる。
- 実験における安全確保や個別指導のポイントについて共有する。

★ 共有ノート例

単元「もののあたたまり方」空气のあたたまり方

学習活動の進行(T1)

- 教科書 P138 を読む
- めあての提示
「空気はどのように温まっていくのだろうか」
予想を話し合う
- 実験1 電熱器に線香の煙を近づけて様子を調べる
- 実験2 空气の流れ実験器で演示実験する
→ 結果を確かめる
- 結果からわかることを班で考える
- まとめを板書
教科書 P138

学習活動のサポート(T2)

- ノートを書けていない子に声をかける
- 電熱器を配る
安全確保（火傷注意）
- 子どもたちを前に集め、しっかり見させる
- ホワイトボード、ペンを配る
- 班活動を見取る

取組の成果

★ みえスタディ・チェック

(理科) の伸び	4年生時 (H28年度)	5年生時 (H29年度)
三重県平均正答率	58.5%	57.6%
井戸小学校 平均正答率	53.6 %	62.0 %
差	-4.9	+4.4

9.3

● 子どもたちの声(平成 28 年度第 4 学年学校独自調査)

自分たちで実験がたくさんできるから楽しい。



観察・実験が好き (93.3%)

先生が近くにいてくれるから安心。



理科がわかる (86.7%)

理科が好き (90%)

● ● ● 熊野市立井戸小学校長より ● ● ●

5月に行った校内研修（6年生理科「水溶液と金属」）では、3～4人のグループで効果的なTT授業について、様々な角度から意見を出し合いながらT1T2の役割内容を付箋に書き込んでいきました。今年度、教員の入れ替えが多くあったこともあり、昨年度に研究した内容をみんなでおさらいしました。児童への働きかけについて、一つひとつ意味づけを確認し合い、興味・関心を大切にしたい深い思考ができる環境づくりを探究しています。